

「ほめる」は「叱らないこと」ではない!

みなさん ほめていますか?ほめる達人竹下幸喜です。

「ほめる達人の竹下さんは、叱らないんでしょ?」あるいは「ほめるということは叱らないことですよね?」という質問や言葉をもたらすことがあります。私は一度たりとも、「私は、叱りません」と言ったことはありませんし、ましてや周りの人に「叱ってはだめですよ」と言ったこともありません。どうしても「ほめる達人」というと「叱らない人」と思われがちですがそうではありません。

大切なことをおさらいしましょう。ほめる達人が伝える「ほめる」とは

「自分の周りの人やモノ・起きる出来事の価値を発見して伝える。」

ということです。これがほめる達人が伝えている「ほめる」という意味・概念です。ですから「価値発見の達人がほめる達人」なのです!

ほめ達は叱ることを否定しません。叱っていいのです。叱ることによって相手の価値を発見し、認めてあげることもできるのです。

「今日あなたの結果は、私が考えている結果ではない。今のあなただったらもっとうまく、もっと上の結果が出せるはず。」「ここまでできるようになった君が、どうしてここで立ち止まるの?才能の出し惜しみをしないで。」というような言葉は、叱っているようでありながら相手の将来の可能性を伝えています。ここで大切なのは「すべての人の成長と可能性を信じる。」という気持ちをいつも持つておくということ。その気持ちを持った上で叱ったり、ほめたりすることで、その言葉が相手の心に響きやすくなります。

「愛すること」の反対は何でしょうか?答えは「憎しみ」・・・ではありません。

「愛すること」の反対は「**無関心**」です。これはマザーテレサの有名な言葉です。「なぜわかってくれないんだろう。」「何回言ったらわかってくれるんだろう。」「いつになったらこの子は成長するんだろう。」というような「腹が立つ」気持ちがあるということは、相手にきちんと向き合っているという証拠です。一番冷たいのは「いいんじゃない、どうせ辞める人間だから。」「自分とは関係のない人間だから。」と関心を持たないこと、これが一番冷たいことなんです。ではどのように伝えていけばいいのか?というように伝え方に焦点を置いて考えていくことが大切です。私は、叱る時に「怒鳴る」ということを手放しました。怒鳴らなくても叱ることはできます。しっかり相手の目を見て、自分が伝えたいことを冷静に伝える方が、相手の心に響きます。ぜひ**「相手の成長と可能性を信じる。」**という叱り方をしてみてください。



Profile

竹下 幸喜(たけした こうき)

1967年生まれ。

一般社団法人 日本ほめる達人協会特別認定講師

ほめる子育て研究所 所長 竹下幸喜

企業や子育てに「ほめて、認めて、励ます指導」を広げている。

ほめる子育て研究所HP▶<http://homeru-kosodate.net>

